

市が取り組んでいる 主な栽培品種



ヤマトトウキ

セリ科の多年草。根は古くから主に婦人薬として使用され、血の道症などに効果がある。



アマチャ

アジサイの変種。乾燥したものを煎じて飲む。乾燥葉は風邪に効き、乾燥花は解熱剤になる。



セネガ

ヒメハギ科の多年草。根には咳を鎮め、気管支炎、痰を除く薬効がある。

今でも薬草の需要がある？

医療現場では、西洋医学が発達している現在でも漢方薬の需要は高いといわれていますが、近年、漢方薬の原材料である中国産の薬草が高騰しており、国産薬草への関心がますます高まっています。

そんな中、現在、市が力を入れているのは薬草の栽培。市では、市内の薬草生産者組合として薬草協議会を設立し、栽培経営の安定化と利益増進を図るため、組織的な生産体制の構築を進めています。例えば、大和当帰の種苗の販売を行なったのち、生産者から生薬の素となる根をはじめ、葉を一括で買取するほか、栽培方法の研修や、より経済性の高い、ほかの薬草の研究調査なども行っています。

販路の拡大が課題

現在、市では約80人の薬草生産者がおられます。現時点では栽培方法も試行錯誤で経済的にも「多く儲かった」という状況ではありませんが、昨今の健康ブームの折、医療や薬だけに頼らず、日常の食の中で健康を維持していく「薬膳」という考え方も相まって、薬草に対しての関心も高まっています。

また、これまで使用されなかった大和当帰の葉の部分

飛鳥時代から続く 薬草のまち 宇陀市

今、宇陀市には、薬草研究家や愛好家、薬膳料理家や企業など多くの方々が注目し、そしてまちづくりに協力いただいています。

これからも、地域をはじめ関係の方々と連携し、薬草産業だけでなく、宇陀市の元気を作っていききたいと思っています。皆さんのご協力をお願いします。



森野旧薬園（大宇陀上新）
園内の様子

日本書紀によると611年、推古天皇の時代に宇陀の地で日本最初の*薬獵が行われたといわれています。

江戸時代中期には、宇陀松山において森野薬草本舗の11代当主森野賽郭が「小石川植物園」と並ぶ日本最古の私設薬草園として森野旧薬園を開き、薬問屋であった旧細川家住宅は「薬の館」として当時の姿を今に残しています。

また宇陀地域からは何人もの製薬企業「ロート製薬、ツムラ（旧津村順天堂）、アステラス製薬（旧藤沢薬品）等」の創設者を輩出しています。

このように、宇陀と薬草は並々ならぬつながりがあるのです。



産業企画課長 東

人口減少・少子高齢化が進む中で、宇陀市では農業従事者が減少し、耕作放棄地が増加しています。その原因として「やはり農業だけでは生活していけない」「労力の割に収入が見込めない」「後継者がいない」ということが挙げられます。

現在、市ではウェルネスシティ（健幸のまち）の実現を目指しています。その中で薬草プロジェクトでは、薬草栽培また6次産業化を通じて、農業所得の向上と耕作放棄地の解消、そして薬草の魅力を発信することで、健康意識の向上を目的としています。

また、「薬草のまち」としてのPRを行うことにより、地域の歴史や自然、風土といった地域資源の発信、そして観光と薬草との連携によるツーリズムへの展開など、地域への集客、また様々な交流につなげていきたいと考えています。



歴史文化館「薬の館」（大宇陀上）

特 集

健幸×産業×薬草×地域の活性化 薬草のまちを目指して

宇陀市では平成24年12月に薬草プロジェクトを始動しました。なぜ、市は薬草のまちづくりを進めているのか？ その目指すものは何なのか？ そして、その効果はあるのか？ 今回の特集では、このプロジェクトにかかる思いと、これまでの取り組みについて紹介します。

産業企画課
☎82・5874 / IP ☎88・9075



▲市役所1階フロアに展示の壁画「推古時代の薬獵*」
※薬獵とは・・・陰暦五月五日に、山野に出て薬草や鹿の若角をとる日本古代の習俗



広報の『薬草逍遥』のコーナーでは薬効のある野菜も紹介しています

地域おこし協力隊 小林



薬草を使ったスイーツのレシピ本作成や、事業者と連携し薬草茶、入浴剤、精油などの商品開発、また市内で薬草を使った飲食店紹介などを進めています

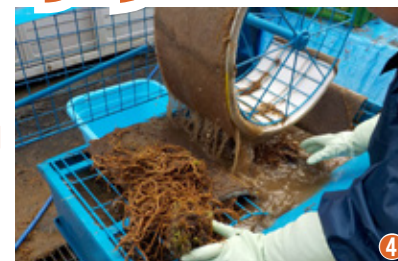
①市で作成した薬草レシピ本 ②大和当帰から抽出したアロマオイル ③大和当帰茶や当帰茶 ④市の薬草料理開発補助事業で開発された薬膳料理の例「有機無農薬野菜と薬草の冷麺」

使う

育成



大和当帰の昨年の生産量 (葉 1t・出荷量 2t)



薬草協議会では、大和当帰の栽培研修をはじめ、育苗、当帰葉出荷、根の集合買取に取り組んでいます

①薬草栽培講習会 ②協議会で育成した大和当帰の種苗 ③圃場での栽培 ④⑤協議会では買取した根の湯もみや葉の洗浄を行い、乾燥させたのち、生薬問屋などに販売

medical herb - UDA

宇陀市薬草の取り組み

発信

各種イベント、関係団体との連携などにより、都市部をはじめ全国に向け「薬草のまち 宇陀」を発信

①昨年度、宇陀市で開催した全国薬草シンポジウム ②薬草ツアーで宇陀松山を散策 ③東京での大和当帰 PR イベントでの出展



5年前に市で大和当帰の試験栽培の事業が始まって、私もそれをきっかけに興味の延長として栽培することになりました。地域でも耕作放棄地があって、それを何とかできないかと、2年前に有志で薬用作物の栽培活動を始めました。私たち自身、栽培を通して発見や楽しみがありますし、この活動が地域課題の解消につながるでしょう。

現在、市薬草協議会で大和当帰の買取をしています。特に当帰葉については、これからもっと様々な面で活用されることを期待しています。

今日、懸念しているのは生産者の高齢化や人手不足。宇陀の薬草を広く知ってもらって、需要が増え、販路が確保できれば、生産意欲が高まり、耕作放棄地も減ってくるのでは、と願っています。

宇陀産薬草の発信と販路拡大を



宇陀市薬草協議会 会長 萬世晴康さん (大宇陀栗野)



楽しむ



今年度、全7回の薬草講座を開催。日頃から薬草に深く携わっている講師を各方面から招いています。薬草染めや薬膳、アロマなどのワークショップを実施

①～⑥薬草講座では、薬草を活用した薬膳や草木染、アロマ、料理など体験 ⑦講師による調理の一例、野菜たっぷりの畑に見立てた薬草料理

料理やハンドクラフト趣味の一つとしても楽しめますね！



地域おこし協力隊 山本

今日号折込チラシを
ご覧ください



産業企画課 山崎

11/30土～12/1日 うだ産フェスタ 2019

農林産物をはじめ、市内の特産品・名産品
など、市内のじまんの品を一堂に集めた、
市の一大イベント、今年も盛大に開催！

場所 宇陀市総合体育館

宇陀市 うだ産フェスタ 検索

今年も薬草レシピ
紹介するわよ～♪



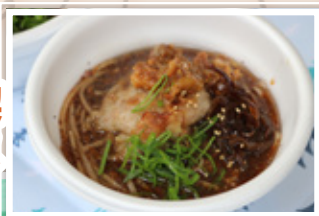
モッチーママの
薬草たっぷり
スイーツ♪

アーティスト
パフォーマンス

宇陀市観光大使
真依子コンサート ほか

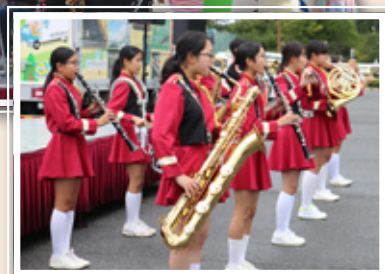
ゆるきゃらも大集合♪

宇陀を満喫
飲食ブース



あったがもんグルメもお楽しみに～

各ステージ
イベント♪



税のひろば
特設ブース

回答者には
プレゼント
あるよ！



おもじる税金クイズ
やってます！(小・中学生向け)

来年からe-Taxでスマホ専用画面をご利用
いただける方の範囲が広がります！

特設ブースにて、スマートフォンから確定
申告書を送信する手続き(e-Tax)をご説
明します。e-Taxで申告書を提出すると早
期の還付や添付書類提出不要などのメリッ
トがあります。ぜひお立ち寄りください。

問 桜井税務署 ☎ 0744・42・3501



薬草コーナーや
農産物品評会
展示ブース
もりだくさん



パワーショベルや電車
のおもちゃなど、お子
さんの楽しめる企画も
もりだくさん！



産業企画課 東峯



生産者の方ががんばって
くれています

産業企画課 辻本



甘茶の収穫時期に
なりました。甘茶
はガクアジサイの仲
間で、根付くまでの
2年ほどは手間がか
かりますが、その後
は、一度その土地に
根付くと旺盛に育ち

ます。そのため、年に2～3回収穫
できます。

使用するのは葉の部分。乾燥させ
たのち、焙煎してお茶にします。名
前のとおり、あっさりとした甘味の
あるお茶になりますが、糖分がない
ので糖尿病の方にも味わっていただ
くことができます。

ティーバッグに加工し、各観光施
設や百貨店でも販売されています。

甘茶を茶葉に加工！

宇陀市薬草加工組合ウェルネスフーズ UDA (榛原大貝)



栽培を始めて約5年。今は栽培の
手間はほとんどかかりませんが、
加工までは収穫-洗浄-消毒-乾
燥-パッケージ、と経費と手間がか
かります。正直、まだ利益が上がる状況で
はありません。これも販路が確保できて大量
消費されると割安になるのですが・・・
でも栽培を続けることで耕作放棄地の解消
に繋がります。全ては販路次第！今は悪戦
苦闘していますが、気長にがんばります。

(代表 山口武さん)



Topics 2

宇陀産大和当帰と蒸溜酒 GIN (ジン) がコラボ！

薬草生産者グループ
ときわクラブ
(大宇陀牧)



この度、油長酒造
(御所市) が宇陀産
の大和当帰を使って
作ったGINが完成。
「橘花 KIKKA GIN」
として販売されるこ
とになりました。

代表の山本氏は「きっかけは市の協
力隊の方の紹介で。試験的に葉をフ
レーバーに使わせてもらったが風味
に深みが出て、大和のGINとして
の特色が出せたのでは。今回初めて農地
を訪れたが、自然の豊かさや生産者
の方の熱意に感動した。」と、生産者
のときわクラブメンバーとの交流で新
たなアイデアも生まれたそうです。



活動を始めて2年。同年代5人で
30アールの休耕田を利用して、大和当
帰やセネガを栽培しています。
やはり薬草ということで、農薬の使用など
に制限があり、大変なこともあります。栽培
する楽しみもあります。宇陀には薬草の歴史
があります。栽培を通して、少しでもその歴
史に携わることができればうれしいし、今
後も継続していきたいです。(ときわクラブ)

